



環境報告書 2022





(本学のイメージキャラクター「マナーブ・デ・ジョーキョー先生」)

目 次

学長メッセージ

1. 環境方針	1
2. 大学概要	2
3. 運営組織等	3
4. マテリアルバランス（環境負荷実績）	4
5. 環境物品等の調達実績	6
6. 環境配慮活動	7
7. 地域との連携	8
8. 関係法令、環境規制への対応	8
9. 出前講座、公開講座の実施状況	8
10. 附属幼稚園の取組	10

報告対象：山屋敷キャンパス（大学・附属幼稚園）

西城キャンパス（附属小学校・学校教育実践研究センター）

本城キャンパス（附属中学校）

対象期間：2021年度（令和3年度） 2021年4月～2022年3月

学長メッセージ



国立大学法人上越教育大学

学長 林 泰成

先日、関西への出張のうちに、車窓に流れる景色をずっと眺めておりました。森や海、田んぼや畑、ときどき家並みも見えますが、緑のなんと多いことかと改めて思いました。しかし、自然環境は放っておけばそれでよいというものではありません。里山の緑も、十分な手入れをしなければ、生物多様性などを維持することができません。

自然環境の保全は、地球規模の大きな課題です。国連総会で採択された持続可能な開発目標（SDGs）にもそうした目標が入っています。近年では、さまざまな法律で、循環型社会の形成や環境の保全が謳われ、関係者との間の重要なコミュニケーション手段である環境報告書の普及促進も求められています。本学では、今年度もそうした求めに応じて「環境報告書 2022」を発行します。

本学では、昨年度、総エネルギー投入量や二酸化炭素排出量、電気使用量やガス使用量など、目標値を上回る削減を達成しました。しかし、ロシアのウクライナ軍事侵攻などによる原油価格の高騰などによって、そうした努力だけでは改善できないような経済的に困難な事態が生じています。これは、本学だけの問題ではなく、全国的な規模で起こっていることですが、“Think globally, act locally”という言葉にしたがって、この上越の地から、地球全体の環境保全を考え、取組を実施し、その情報を発信し続けていきます。

1. 環境方針

国立大学法人上越教育大学 環境方針

(平成 23 年 1 月 12 日制定)

上越教育大学は、自然や歴史、文化に恵まれ、教育に対する深い理解と愛情を有する文教の地において、国際化時代に対応し「地域に根ざした教員養成」を実現するにあたり、教育、研究、社会への貢献、地域連携等の活動に対し、全ての大学構成員が協力して、次の事項を推進することにより、環境との調和と環境負荷の低減に努めます。

1. 持続発展可能な社会の構築に貢献する力量を身につけるための環境教育・環境学習活動を推進し、教育現場をはじめ地域社会において環境保全の推進に活躍する人材の養成に努めます。
2. 豊かな自然との共生を図り、生物多様性を重視し、地球規模で環境を考え、地域から行動・発信し、評価できる人材の養成に努めます。
3. 環境関連法規を遵守するとともに、本学としての特徴を活かした持続発展教育や環境保全活動を推進し、地球環境に対する負荷の低減を図ります。
4. 循環型社会の構築を進めるための環境マネジメントシステムを確立するとともに、大学構成員の意見をもとに継続的な改善を図ります。

●環境に関する体制

上越教育大学における環境保全の活動を推進するため、学長の下に施設安全・環境委員会を設置しています。

施設安全・環境委員会

委員長：学長が指名する副学長

委員：各学系から選出された教授または准教授（講師及び助教を含む）各 4 人、
附属中学校長、事務局長兼副学長（事務総括・総合調整担当）、
施設課長

2. 大学概要



山屋敷キャンパス



西城キャンパス



本城キャンパス

●データで見る大学概要(2021年5月1日時点)

キャンパス名	山屋敷	西城	本城	その他	計
学生(学部)	672名	—	—	—	672名
学生(大学院)	517名	—	—	—	517名
学生(連合大学院)	31名	—	—	—	31名
園児・児童・生徒	47名	412名	323名	—	782名
教員	147名	26名	18名	—	191名
事務職員		105名		—	105名
土地	353,041 m ²	36,731 m ²	50,127 m ²	1,871 m ²	441,770 m ²
建物	66,437 m ²	7,987 m ²	5,930 m ²	315 m ²	80,669 m ²

3. 運営組織等

●運営組織 (法人と大学)

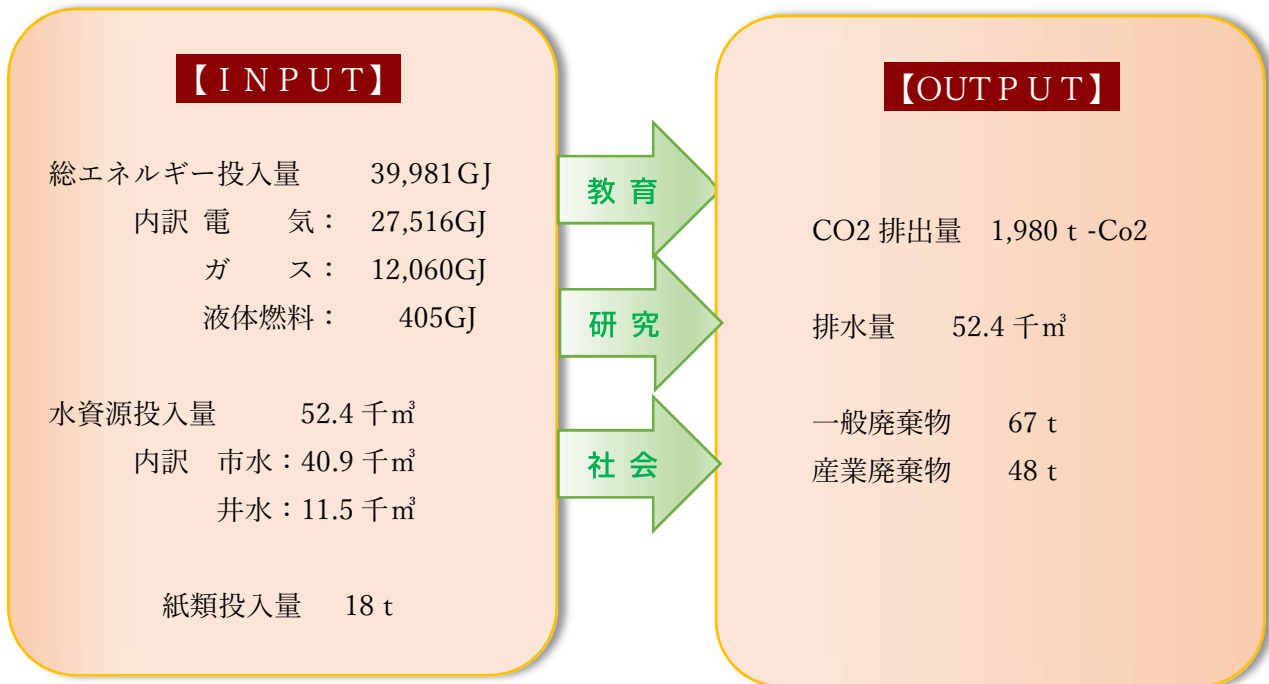


●教育組織



4. マテリアルバランス(環境負荷実績)

本学の事業（教育・研究・社会）活動におけるエネルギー及び資源の投入量【INPUT】とその活動に伴って発生した環境負荷の排出量【OUTPUT】をあらわす。
 (※エネルギーの使用量については、省エネ法の参照による)



●エネルギー消費削減目標

本学は、2005年度(平成17年度)の排出量を基準として、毎年1%削減することを目標に省エネルギーに取り組んでいます。

●エネルギー消費削減の行動

エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量の見える化を毎月実施し、省エネ意識の醸成を図っています。エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量が多くなる夏季及び冬季に節電計画を示し、削減目標の達成に向けて、省エネ行動を推進しています。



●エネルギー消費量分析・実績

本学で使用するエネルギー量のうち、電気使用量が68%を占めており、ガス使用量は30%、液体燃料は1%の構成です。

ガス使用量は、主に熱源用エネルギーとしてボイラー（暖房・給湯）、冷温水発生器(暖房・冷房)などに使用しています。

総エネルギー投入量は、平成17年度比29%減、対前年度比2.5%減となりました。

対前年度比の内訳は、電気は4%減、ガスは1%増となりました。

本学のある上越市は豪雪地帯のため、地下水を利用した消雪設備が構内道路に敷設されておりますが、井水使用量は、昨年度より28%減りました。これは、2020年度が記録的な大雪となった年と比較しているためです。

地球温暖化の原因とされる温室効果ガスのうち占める割合の多い二酸化炭素の排出量は、平成17年度比32%減、対前年度比6%減となりました。

●エネルギー消費削減の実施

高効率機器の導入として、人文棟改修(Ⅱ期)工事に際し、LED照明、高効率空調設備、複層ガラス、断熱材、節水型器具等の採用を行いました。



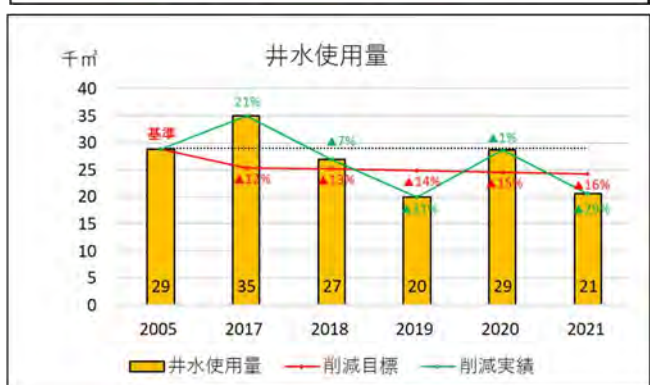
LED照明、高効率空調、複層ガラス



高効率空調設備室外機



節水型器具



5. 環境物品等の調達実績

I. 令和3年度 特定調達品目の調達状況

①目標達成状況

調達方針において、目標はすべて100%としておりますが、一部用紙類・自動車等において判断基準を下回ったものの、ほぼ100%を達成することができました。

②調達目標を達成できなかった理由等

紙類において、調達目標を達成できなかった主な理由としては、各種業務において、その用途の特殊性等の理由により、特定調達品目の中に仕様内容を満足する規格品がなかったことによります。自動車等においては、調達当初はグリーン購入法適合品でしたが、リース契約の継続期間中に法改正がなされたため対象外となり、判断基準を下回りました。

③判断基準より高い基準を満足する物品等の調達状況

判断基準より高い基準を満足する調達はありませんでした。

【令和3年度 グリーン購入実績】

分野	総調達	特定調達物品	目標達成
紙類（7品目）	18,723kg	18,212kg	97.3%
文具類（83品目）	61品	61品	100%
オフィス家具等（10品目）	6品	6品	100%
画像機器等（10品目）	85台	85台	100%
電子計算機等（4品目）	874個	874個	100%
オフィス機器（5品目）	3,422個	3,422個	100%
家電製品（6品目）	17台	17台	100%
エアコンディショナー等（3品目）	61台	61台	100%
温水器等（4品目）	18台	18台	100%
照明（4品目）	112個	112個	100%
自動車等（3品目）	1品	0品	0%
制服・作業服（4品目）	2品	2品	100%
インテリア・寝装寝具（11品目）	1品	1品	100%
作業手袋（1品目）	41組	41組	100%
その他繊維製品（7品目）	27点	27点	100%
災害備蓄用品（10品目）	4,390個	4,390個	100%
役務（21品目）	460件	460件	100%
ごみ袋等（1品目）	23,519枚	23,519枚	100%

II. 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要(ホームページより)

令和3年度においては、環境配慮契約に該当する契約はありませんでした。

6. 環境配慮活動

I. 上越教育大学リサイクル募金

上越教育大学リサイクル募金は、不要になった本・DVD等の査定額を「上越教育大学基金」に寄附していただく取組です。

寄附金は、上越教育大学基金において、学生の修学支援、教育研究活動の充実発展をはじめとした事業に役立てられます。



II. キャンパス・クリーン・ウィーク

令和3年7月26日（月）～30日（金）の一週間を「構内クリーンウィーク」として、山屋敷キャンパスの環境整備を行いました。

例年この時期に学生及び教職員が集まり、半日かけてキャンパス内の一斉清掃を行っています。新型コロナウイルス感染予防対策として、一週間の中で各自が都合の良い日時に作業を行うこととしました。



III. 緑の小道

緑の小道周辺の森は、古来より脈々と継承されてきた歴史と文化が既存樹木を介してうかがい知ることができる貴重な体験の場であり、その貴重な森を守るには、上越地域の潜在自然植生種の保護育成に努め、外来種をできるだけ排除する環境整備を行うことが重要です。

かつて地域の人々の生活の場であった里山（薪炭林や農用林として使われ、守られてきた二次林）を散策道として整備したもので、貴重な教材として捉えた自然環境学習の場として内外から活用されています。

整備当初から保全・整備及び活用推進を図るため「緑の小道レンジャー隊」を毎年、学生・教職員により編制しており、危険個所の点検等を実施しています。



7. 地域との連携

春日山城跡保存事業への参加

令和3年4月4日（日）、5月30日（日）、7月25日（日）春日山城跡保存整備促進協議会が主催する「春日山城跡の大清掃」と「春日山城跡の草刈り」に参加しました。

これは、上杉謙信公の居城として知られる春日山城跡の環境整備事業として行われたもので、本学からは有志の学生及び職員延べ34名が参加しました。主に「千貫門跡」の雑草の刈り取りや枯れ葉などの片付けを行い見違えるように綺麗にしました。

春日山城跡のお膝元に位置する大学として、引き続き地域貢献に努めていきます。



8. 関係法令、環境規制への対応

関係法令等	本学の対応
水質汚濁防止法	水質検査
下水道法	水質検査
大気汚染防止法	ばい煙測定
グリーン購入法	公表
環境配慮契約法	公表
上越市生活環境の保全等に関する条例	届出

9. 出前講座、公開講座の実施状況

出前講座、公開講座は、大学の教育と研究の成果を広く地域社会に還元し、一般の方の生涯学習や、現職教員の方の研修の機会として役立てていただくために、地域貢献活動の一環として行われている事業です。この中で、「環境・自然」に関わるものを紹介します。

講座名	担当教員	実施日
地球温暖化：なぜおきる？何がおきる？	山縣 耕太郎	7月8日
身近な植物観察	五百川 裕	9月7日
植物の分類	五百川 裕	11月9日、16日

10. 附属幼稚園の取組

附属幼稚園は、「太陽・土・水の大好きな子どもたち」を育むことをテーマとし、保育活動を進めています。その実現に向け、幼児が様々な遊びを通して身の回りの自然環境について興味や関心をもち、大切にしていこうとする気持ちを高められるような園庭環境の整備に努めています。また、豊富な自然物を活かした遊びや、生き物との触れ合いや飼育、野菜の栽培など、自然環境を直接体感できる活動を積極的に取り入れ、環境教育へのつながりを意識した取組を日々行っています。

ここ数年は、新型コロナウイルス感染症対策も踏まえ、屋外での遊びを中心としています。園庭には様々な樹木や草花が植えてあり、子どもたちは自然の素材を活かしながら季節に応じた遊びを展開します。晴れた日はもちろんのこと、雨降りの日は水たまりの水や泥の感触を楽しみ、風が吹けば空を舞う葉に歓声を上げるなど、子どもたちは様々な自然現象に興味をもってかかわります。園庭には池もあり、様々な虫や生き物に触れる機会も多く、遊びを通して命の大切さを学ぶことができます。

このように子どもたちが思い思いに遊びに浸ることができる環境を保つには、日々の環境整備が欠かせません。時には保護者の協力を得ながら、共に環境を整えていく活動を取り入れています。子どもの遊び・育ちを支えるだけでなく、保護者の環境保護への関心を高める上でも大切な取組となっています。





公表年月：2022年9月

作成：上越教育大学施設課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel：025-521-3263 / Fax：025-521-3269

E-mail：shisetsu@juen.ac.jp

URL <https://www.juen.ac.jp/index.html>